

2025 年度 杏林大学

【 講 評 】

設問構成、試験時間は昨年度と同じ。2020 年度に易化し、それ以来かなり高得点での争いとなっていると考えられる。試験時間は問題量に対して決して多くはないので、慌てず基本問題の取りこぼしのないようにしたい。

I は例年基本レベルの文法・語彙問題だが、やや難レベルの問題も含まれる。(カ) 最上級表現の強調の **ever** (コ) イディオム **for want of** などは、文法事項をしっかりと仕上げていないとやや難しい。

II は整序英作文。基本レベルなのでここは全問正解を目指したい。5 つの語が連続している問題とばらばらになっている問題が混在する。

III は文整序問題。内容の展開、ディスコースマーカー、指示語・代名詞に注目すれば短時間で解ける問題。

IV は英文読解問題。2 つとも 300 語程度の長文で、昨今の大学入試問題としては異例の短さといってよいだろう。語数は少なくとも、抽象的で内容の把握が難しい文章が出題されることもあるが、本年度は 2 つの文章とも読みやすいもので、しっかりとした語彙力があれば全問正解も十分可能である。

【 解 答 ・ 解 説 】

I

解答

(ア) ③ (イ) ② (ウ) ① (エ) ② (オ) ④ (カ) ④ (キ) ① (ク) ② (ケ) ① (コ) ③

解説

(ア) 「キンドルがたとえどれほど便利でも、私は実物の本を読むほうが好きだ」

・ **no matter how** + 形容詞・副詞「たとえどれほど…でも」譲歩の副詞節

(イ) 「地球では、長年に渡って大きな気候変動が起こってきた」

・ **S(時代・場所) see O(出来事)**「時代や場所が出来事を目撃する」

(ウ) 「過去のことをいつまでもくよくよ考えるのではなく、未来のことに集中しよう」

・ **dwell on A**「A のことをくよくよ考える」

(エ) 「ポケモン学について聞いたことがある？世界にはほとんど知られていないけど、本当におもしろい研究があるね」

・ **hear of A**「A について耳にする」

(オ) 「私たちのキャンパスは耐震隔離されています。なので、大地震のときも安心です」

・ **rest assured**「安心する」

(カ) 「彼はその絵画を手に入れたが、それはこれまでで一番のお気に入りになった」

・ **ever**「今までで」最上級の強調。ここでは **favorite**「一番好きな」を強調している。

(キ) 「彼らは、あなたとあなたの隣に座っている人と同じくらいお互いに異なっていた」

・ **as...as**「同じくらい…」

(ク)「次の3か月で状況がどのように変わるかまだわからないため、私たちは最終決定ができない」

・ remain to be *done* 「まだ…しない」

(ケ)「彼女は3人の子どもを育て上げたことに加え、この仕事でも成功した」

・ bear and rear children 「子どもを産み、育てる」

(コ)「この国では、基本的な医療の不足によって多くの人が死んでいる」

・ for want of A 「Aが不足して」 want が「不足」の意味の名詞。

II

解答

A ②.③ B ④.② C ⑤.① D ④.① E ④.①

解説

A. *If he spent two years in the U.S., [how come he can't speak] a word of English?*

「もし彼がアメリカで2年暮らしたというなら、なんで英語を一言もしゃべれないんだ」

・ how come S V...? 「なぜ…」 SVは疑問文の語順にならないことに注意。

B. *The [advantages of double-income families outweigh] the disadvantages.*

「夫婦共働き家庭の利点は欠点を上回る」

・ outweigh O 「(重要度・価値などで)Oにまさる」

C. *I went to the salon and I [had my hair trimmed a] bit.*

「私は美容院へ行き、少しでも毛先をそろえてもらった」

・ have O *done* 「Oを…してもらう」

D. *Unfortunately, power [corrupts], and people will [do] lots of things to [get] power and [stay] in power, [including] doing bad things in election.*

「残念ながら、権力は腐敗し、人々は権力を手に入れ権力にとどまるために、選挙での不正行為を含め、多くのことをするものだ」

・ corrupt 「腐敗する」、stay in power 「権力を持ち続ける」、including A 「Aを含め」

E. *She was [so lost] in her thoughts [she] scarcely heard [what Terry] said.*

「彼女は考えに没頭していたので、テリーが言ったことをほとんど聞いていなかった」

・ so+形容詞・副詞 that SV 「たいへん…なので」

・ be lost in one's thoughts 「考えに没頭する」

III

解答

A ②.⑤ (③②①⑤④) B ①.④ (⑤①②④③) C ①.② (④①⑤②③)

D ①.② (④①③②⑤) E ③.⑤ (④③①⑤②)

解説

A. 「杏林大学が海外の研究機関と提携している」という1文目を受けて、その例として③「英国のレスター大学で『メディカルイングリッシュセミナー』が開催されている」とつなげる。次に、セミナーの具体的な内容が述べられている②につながり、さらに①の also に着目し、これがセミナー内容の追加であると判断する。次

にまた⑤の **also** に着目するが、こちらはレスター大学のセミナーを受けて「杏林大学でも」という流れである。最後に④で「このようにして…」と結論が述べられている。

- B. 1 文目の「電車の遅延は本当に迷惑である」を受けて、⑤「多くの人は時間通りに通学通勤するために公共の交通機関に頼っている」という文が続く。次に①の **Thus** に着目すると、「したがって、状況が効率的に進まないと不便を被る」が⑤を受けた結果を表していることがわかる。続けて②「当然ながら、鉄道会社はそのようなことを防ぐためにベストを尽くしている」→④「しかし、自然災害のような制御不能なこともある」と続く。④の「自然災害のような制御不能なこと」を③の **these happenings** で受けて「これらの出来事にも関わらず、私たちは信頼できるサービスに頼っている」という結論となる。
- C. 1 文目の「時代は変化している」というテーマを受けて、④「数年前には **ChatGPT** を誰も知らなかった」→①「しかし今多くの大学がその(=ChatGPT)コントロールの仕方について対応を迫られている」とつながる。さらに、⑤で「教室で使うべきか」→②「信頼性に欠けるので禁止すべきか」と課題が具体的に述べられている。最後に③「これ(ChatGPT)は、今日の世界をどのように理解するかの一例だ」という結論となる。
- D. 会話の流れは次の通り。 A:「道に迷ったようですね」→B:「④そうなんです」→A:「①どこに行くのか教えていただければ、お役に立てるかもしれません」→B:「③ありがたい、シティミュージアムに行きたいんです」→A:「②シティミュージアムですか。ちょっとスマホで調べてみますね」→B:「⑤それは助かります。私のは充電が切れてしまって使えないんですよ」
- E. 会話の流れは次の通り。 A:「もうカテドラルの近くまで来たかな」→B:「④そうだね、ちょうどここを左折して…いや次だな」→A:「③だれかに聞いてみよう」→B:「①それならカテドラルはバルセロナの反対側？」→A:「そのようだね。⑤でも、このカフェすごくいい匂いがするよ。入ってみよう」→B:「②迷子になったおかげで、街で一番のチュロスを見つけたってことだね」

IV

(英文 1)

解答

(ア) ② (イ) ③ (ウ) ④ (エ) ② (オ) ①

解説

(ア) 第 2 段落第 3 文に「Edomondson の心理的安全性に関する研究は、経営、医療、教育の学術研究に影響を及ぼした」とあるため、②「それは他の学術分野に広がった」が正解となる。

(イ) 空所 (イ) に続く文で「従業員は 1 人より協調した方が多くの仕事ができる」と述べられているので、③「統一体は個の集まりよりも偉大である」が正解となる。

(ウ) 空所 (ウ) の後に続いて列挙されているのは、成功したチームの 5 つの「特性」である。したがって、④ **traits** 「特性」が正解となる。

(エ) ②は「チームのメンバーは自分の仕事が重要だと感じ、リスクを冒しても安全だと感じ、明確な目標を持つ」という意味。これは、上記の 5 つの特性の説明のうち、**Psychological safety, Structure and clarity, Impact** の 3 つと一致する。

(オ) 挿入する文は「それは効果的なコミュニケーションや協調に不可欠であり、さらに創造性や革新を促す」という意味。着目すべきは **It** の指示対象である。**It** が (1) の直前の文の内容を受けていると判断すると文脈に合う流れとなる。ただし、一般的に主語の **it** は前文の主語を指し、前文の内容を受けるのは **that** や非制限用法の **which** である。

(英文 2)

解答

(カ) ③ (キ) ① (ク) ④ (ケ) ② (コ) ②

解説

(カ) 第1段落第1文で「魚の群れや動物の群れは、少数の意欲的な個体に導かれる」とあるため、③「動物たちは本能的に少数のメンバーについていく」が正解となる。

(キ) 下線部を含む文は「they が何を企んでいるか誰にも言わずに、その2人の学生は必ず集団の先頭にいるようにした」という意味。ここでの they は主節の the two students,つまり2人のリーダーを指している。したがって、①が正解となる。

(ク) sneaky は「こそこそした」という意味。本文の実験は、問の(キ)を含む文で述べられたように他の生徒に目的を教えずに密かに行われたものである。したがって、④「彼らは密かに他の学生を実験対象に利用したから」が正解となる。

(ケ) defiant は「挑戦的な、反抗的な」の意味。したがって、②が正解となる。

(コ) 空所を含む文は「もし少数のリーダーが影響を与えないことを示したければ、他の学生は右か左のコースを()に歩いたはずだからだ」という意味。したがって、空所に「無作為に」の意味の②at random を入れると文脈に合う。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>